かたの瓦版

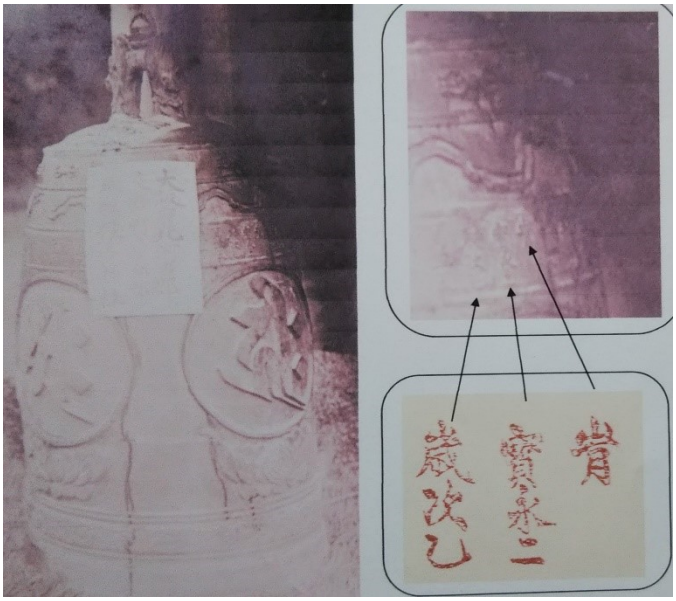
この時、交野は動いた

=元号でたどる交野⑧=

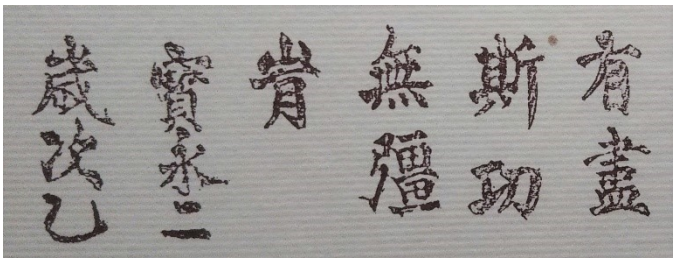
嘉永（かえい）（1848-1855 年）孝明天皇

◇改元理由は明らかになっていないが、孝明天皇即位による改元ともいわれている。

★嘉永元年（1848）私部住吉神社の宮寺現光寺鐘を鋳かえる（原田家記録）



現光寺の梵鐘　　拓本から



*第二次世界大戦の終わり頃、金属物資として供出され現存しないが、当時の梵鐘であることが古本にはさんであった１枚の写真から確認できました。

2013. 4. 9

★嘉永二年（1849）この年森村４１軒（向井直一家文書）

★10 月私市、森は天田の宮拝殿を修復する（松井幸治家文書）

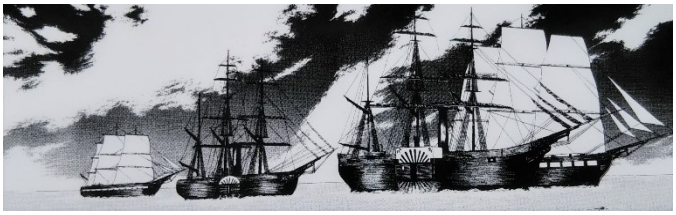
★この年より寺・私市・星田・私部村大津宿の代助郷となる（山添文造家文書）

★嘉永三年（1850）森、私部、星田、郡津領主大久保家は窮民に薄利で金を貸す（向井直一家文書）

★嘉永五年（1852）星田金谷家出身僧闡玉は浄土宗西山派本山光明寺学頭職となる（星田慈光寺過去帳）

★大凶作につき私部村より領主へ憐愍の願を出す（北田家文書）

◇嘉永六（1853）ペリー浦賀に来航、開国を迫る。幕府は回答を１年後に先延ばしする。



◇嘉永七（1854）ペリーと日米和親条約に調印=開国。

★私部畠山領大不作につきこの年の年貢免につき憐愍の願を出す（北田家文書）

安政（あんせい）（1854-1860 年）孝明天皇

◇開国問題と将軍後継者問題

★安政元年（1854）北田謄造畠山家代官になる（北田家文書）

★安政二（1855）倉治ほか七か村領主久貝因幡守正典は領下の農兵を徴集して軍事訓練をはじめる（長尾笹田家所蔵記録）

・徳川家代官小堀勝太郎役所より獅子窟寺内陵墓取調べあり（松井幸治家文書）★安政三年（1856）この頃村々に京、大坂へ出奔人多くでる（向井直一家文書）

★安政四年（1857）久貝家領下倉治村中村惣兵衛、加地丈太郎等小銃狭搾射撃を練習して、弾痕を津田春日神社に奉納す（同奉納額現存）

★私部住吉神社屋根替（北村菊松家所蔵）

◇安政五年（1858）「安政の五か国条約」条約締結に反対➡「安政の大獄」である（長州藩の吉田松陰なども処刑される）。

★安政五年（1858）私部大凶作、畠山領下年貢完納できず53石拝借米とする（原田家文書）

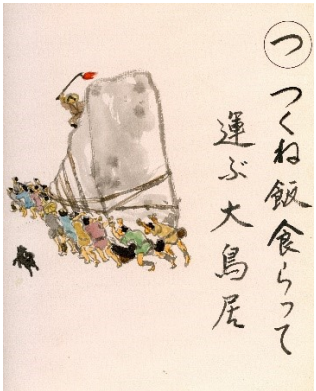
◇安政七年（1860）最終ページに補足

万延（まんえん）（1860-1861年）孝明天皇

◇江戸城本丸の火災、及び「桜田門外の変」などによる改元。大量の金が海外へ流出➡「万延小判」を発行。

★万延元年（1860）私部住吉神社石大鳥居再建（原田家所蔵記録）住吉神社の正面入り口の大鳥居は、最初文政八年（１８２５）に建てられ３０年後の安政二年（１８５５）地震により倒壊した。

初代鳥居の再利用



萬延元年（１８６０年）再建大鳥居

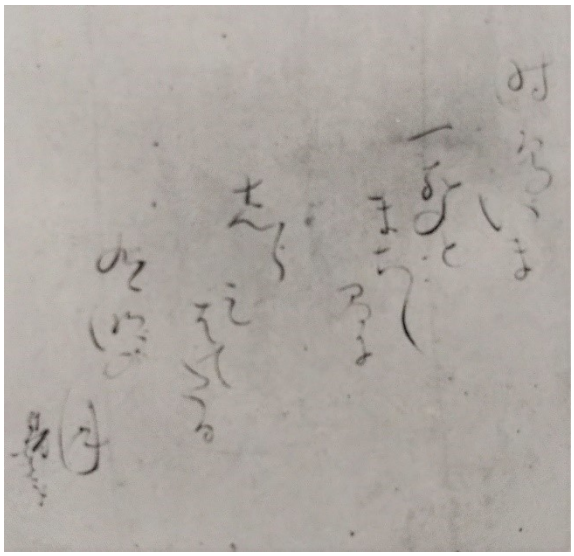
倒壊５年後の万延元年（１８６０）に再建された。この年は桜田門の変や悪疫の流行など暗い事件が多かったので安政７年３月１８日萬延に開元された。「萬年も繁栄が続きます様に」との祈りを込めて萬年元年と改元されたが、実際は凶作・物価高騰などで人心が動揺。翌年２月２０日に早くも文久元年と変えられている。弘化→嘉永→安政→万延→文久→元治→慶応と年号が次々変わった。（改元七連発）

文久（ぶんきゅう）（1861-1864年）孝明天皇

◇「辛酉革命」による改元。開国と「桜田門外の変」などによる権威喪失。

★文久二（1862）私市155石余、寺342石余、傍示39石余は会津城主松平容保京都守護職の役知となる

★歌人太田垣蓮月星田新宮山愛染院に寄寓しこの地方ところどころにその作をのこす（蓮月著『海士の刈藻）



太田垣連月筆跡和歌

◇文久二年（1862）「文久の改革」

★文久三年（1863）私部大凶作、畠山領下は拝借米の返納できず延期願する（原田英二家文書）

★春四月京都勤王志士冷泉為恭は新選組にねらわれ、星田新宮山にいる知人太田垣蓮月をたよって身を隠す（『勤王志士伝』）

★私部想善寺一字一石三部経塔できる（同寺記録）

想善寺境内

一字一石三部経塔

元治（げんじ）（1864-1865 年）孝明天皇

◇「甲子革命」による改元。「第一次長州征伐」勃発、京都に潜伏していた長州藩などの尊王蝦夷志士を新選組が襲撃「池田屋事件」が勃発。

◇長州軍と幕府が蛤門などで交戦「禁門の変、蛤御門の変」

★元治元年（1864）寺村より領主松平家代官所へ米価下落につき年貢銀納期期限延期を願う（山添正也家文書）

★私部畠山領下では拝借米をうける（原田英二家文書）

★私部領主畠山義男は将軍に従って上洛のため臨時用金を領下村々から出す（北田家文書）

慶応（けいおう）（1865-1868 年）孝明・明治天皇

◇前年の「蛤御門の変」など、国内情勢が不安定だったため改元。江戸時代最後の改元である。

◇「慶応」の元となった「慶雲応輝」とは、「めでたい兆しの雲がこれから輝くだろう」という意味。

◇「王政復古」により江戸幕府が終焉

★慶応元年（1865）将軍家茂（徳川 14 代）長州再征のため大坂に出陣、交野では久貝領下倉治その他七ケ村の農兵、領主にしたがって大坂に出陣する（長尾笹田家記録）

★寺村は摂州芥川駅の助郷をことわる（山添正也家文書）

★傍示村家数 12 軒（内寺 1 軒）人数 40 人男 19 人、女 21 人（伊丹聖家文書）

★森村助郷免除願する（向井直一家文書）

◇慶応二（1866）15 代将軍、徳川慶喜

★慶応二（1866）大雨、大洪水川々堤切れあり（本町史編纂会所蔵文書）

★私部領主畠山義勇の長州再出陣のため私部その外村々から手伝金を調達しようとしたが将軍家茂の死によってことやみとなる（原田英二家所蔵文書）

★夏大雨のため天野川私市の堰、みな流れ大被害（松井幸治家文書）

◇慶応三(1867)慶喜は政権を朝廷に返還する「大政奉還」の上奏を行った。
◇慶応四(1868)「鳥羽・伏見の戦い」が勃発。
これに旧幕府軍が敗れ、慶喜は江戸に逃れたものの、ついには江戸城無血開城を余儀なくされた。
こうして、江戸幕府は終焉した。

追記-1

★旧幕藩領・幕末期の所領

・倉治【5780 石】大坂城代
久見因幡守役地（5780 石）
・郡津【870 石】　片桐石見守（590 石）
大久保加賀守（280 石）
・私部【1585 石】　東株・大久保加賀守（508 石）
西株・畠山修理大夫（1077 石）
・寺【342 石】石清水八幡宮御領所（28 石）
大坂西町奉行役地（314 石）
・森【311 石】老中・大久保忠晴（311 石）
・傍示 → 徳川家直轄地
・私市【727 石】大阪本町奉行役地（155 石）
旗本・永井久治（145 石）
旗本・越智家（427 石）
・星田【1530 石】殿様大名・市橋家（1300 石）
永井家から大久保家へ（110 石）
石清水八幡宮御領所（120 石）

★明治元年（1868 年）6 月　大阪司農局へ
これより明治以降の沿革がはじまる

追記-2

*安政七年（1860 年）3 月 3 日の雪の朝、桜田門外の変=井伊直弼暗殺事件は、確実にその後の歴史の流れを大きく変えた。
各地で〈草莽の志士〉が生まれていた。
「草莽の志士（そうもう）」士官せず民間人の志ある者、江戸末期、幕末の時代に日本の為に命をかけて日本を守った志士の事を言っている。
【薩摩】西郷隆盛・大久保利通・小松帯刀…。
【備前】江藤新平・大隈重信…。
【筑後】真木泉…。
【土佐】坂本龍馬・中岡慎太郎・武市瑞山
後藤象二郎・板垣退助…。
【長州】高杉晋作・久坂玄瑞・桂小五郎（木戸孝允）…。
【下総】相楽総三…。
【江戸】大橋訥庵…。
【出羽】清河八郎…。

（参考資料）交野市史交野町略史復刻編より
元号でたどる日本史（ＰＨＰ）
ビジュアル日本の歴史

=了=